

越生町カタクリの会

このコーナーでは町内で活動している女性団体を取り上げます。今回は、『越生町カタクリの会』の会長を務める池畑順子さんにお話を伺いました。



■『越生町カタクリの会』とはどういった団体ですか？

農家の主婦を中心としたメンバーが集まり、地場産の素材を使った商品の開発や、レシピの研究を行ったり、料理講習会の講師などを務めたりしています。

■最近の活動成果は？

梅干しをアイスに練り込んだ商品『おこせ手づくりうめ

りんアイス』を開発し、販売を開始しました。お客様からは、『パッケージの『うめりん』もかわいいし、味も美味しかった。』といった感想をいただき、評判も上々です。

■これまでの活動を振り返り、女性団体ならではの苦労なところはありましたか？

皆が家庭と仕事を持ちつつ、限られた時間での活動であることから、各人の都合の調整に苦労してきました。

その一方で、皆が気兼ねなくおしゃべりできることから、会の活動はメンバーの息抜きの場にもなっています。いろいろな年代の人が所属しており、おしゃべりの中から、農産物のレシピなど、たくさん

■女性団体であることの強みはありますか？

アイスの開発では、繊細な

味付けなどの面で自分たちの女性ならではの視点が活かされていると思います。女性だけの小さい会ですが、自分たちの活動を通して商品として形にすることができ、また、越生町のPRにも貢献でき、とても励みになります。

■男女共生について、ご意見を聞かせてください。

これからの日本は人口が減少し、労働人口も減るため、女性の力をさらに活かす必要があります。でも主婦は本当に忙しい。まずは家庭の中から、『男の仕事、女の仕事』を分けなくて、家事、子育て、介護など何でもパートナーとしてお互いを支え合うという姿勢が大切だと思います。



▲カタクリの会の活動風景

コラム

越生町男女共生フォーラムに参加して

越生町男女共生推進会議委員 千葉 祐子

1月22日、中央公民館視聴覚ホールにて男女共生フォーラムが開催され、第一部では、青森県八戸市の観光マップ作製に取り組む女性塾の活動姿がビデオ上映されました。第二部は国立女性教育会館客員研究員の高橋由紀さんによる講演で、テーマは『自分のま

ちが好きになる』でした。高橋さんは、越生町は高齢化が進み、単身世帯と夫婦のみの世帯が全世帯の約半分を占めているそうです。そのような現状を踏まえて若い世代が魅力を感じ、高齢者が孤立しない町にするためにも、女性は家庭、男性は仕事ではなく、個人のやりたい事や持ち味が活かされる事で、男女共同参画の実践になる、と仰っていました。



特別インタビュー

上台区役員のみなさん

1年間の任期を終えて

平成28年度、上台区では、三役（区長、区長代理、総務）を全て女性が務めました。区の執行部を全て女性が務めたのは、越生町の歴史の中で初めてのことです。そこで、この3月で1年の任期を終えた上台区の三役のみなさんにお話を伺いました。

■まずは、自己紹介をお願いします。

内藤さん）平成28年度に上台区区長を務めた内藤です。

坂上さん）区長代理を務めた坂上です。区長代理として、区長の補助や区の会計管理を主に行っていました。

浅見さん）総務を務めた浅見



▲内藤久美子さん

です。町広報紙の仕分けや区の集会所の管理を主に行っていました。

■三役全員が女性に決まった経緯を教えてください。

内藤さん）正直言って偶然ですね（笑）。上台区は区内の3グループから各1名ずつ役員候補者を選出することになっていて、各グループから選出されたのがたまたま皆女性だったんです。ただ、後から考えると、夫の仕事が週末も忙しい、といった背景的な事情がみな同じですので、必然な流れだったのかもかもしれません。

■女性のみということで良かった点はありましたか？

内藤さん）子どもを育てた経験から、皆がもともと地域の行事に関わっており、行事の内容をよく知っています。そうした意味では、円滑に行事の運営にとりか

ることができました。

浅見さん）お互い年代も近く、もともと顔見知りの間柄でしたので、そうした関係性は、役員になってからも活かされましたね。おかげで初めからいろいろなことを包み隠さず、話し合えたと思います。

■ご苦労はありましたか？

浅見さん）別に仕事をもっており、役員活動のために時間をすることが大変でした。子供の面倒を家族に見てもらったり、家族の協力を得て、何とかこなすことができました。理解し、協力してくれた家族には本当に感謝しています。

■男女共生について、ご意見を聞かせてください。

坂上さん）女性がこれまで以上に社会に進出するために、男性の積極的な協力が



▲坂上光子さん



▲浅見三千代さん

必要になると思います。そこは、男性側の理解をお願いしたいですね。

内藤さん）これまで、男性の役割と変わってきたことでも、女性ができることは比較的多いと思います。そのうえで、男女が共に支え合うという姿勢がこれからさらに必要になってくると思います。

■この記事を読み、『私も区の役員を務めてみよう』と思った方へのメッセージをお願いします。

内藤さん）これまで、自分と同じ子育て世代の人とばかり話すこと多かったのですが、役員をやってみて、世代が全く異なる人と顔見知りになることができて良かったと思います。地域の中の知り合いが増えるということは、とても魅力的なことですね。

坂上さん）自分は、区の役員を務めたことで、普段の生活では見えてこない、地域の問題点などが見えました。役員を務める前は仕事ばかりで、地域にあまり関われなかったけれど、今回役員を務めてみて、地域と深くつながるきっかけになりました。

これまでは男性が務めることが多かった区の役員ですが、お話にもあったように女性が務めることによる利点も多いようです。この記事をお読みの方のみなさん、機会があれば、今後、区の役員を務めてはどうか。

